



官民協働海外留学支援制度 拠点形成支援事業 活動実績報告資料

< ふじのくにグローバル人材育成事業 > 令和6年度活動報告



静岡県（「ふじのくにグローバル人材育成事業」運営協議会）



静岡県では、グローバル人材の育成を社会総がかりで支援することを目的として、2016年4月に「ふじのくにグローバル人材育成基金」を創設し、高校生の語学研修、海外インターンシップ、高等学校によるグローバル・リーダー育成に関する研究等を支援する「グローバル人材育成事業」を実施してきました。また、予測困難な時代を生き抜き、より良い社会を創造する力を育むため、生徒自らが課題を立て、他者と協働して解決の道筋を探る「探究学習」を重点的に推進しています。

今後、国内外の激しい変化の中で本県の持続的な発展のために活躍できる人材の育成に向け、本県の産学官が連携して探究を伴う留学を支援し、日ごろの探究学習を通じて生徒達が身に付けている本県の特性・特徴への理解、より良い社会を創造する力等に磨きをかけつつ、国際社会の中で地域の方向を考える視点等を育みます。また、留学をした生徒の貴重な経験を積極的に発信し、留学機運の醸成及び次なる留学生の拡大に繋げていきます。

地域協議会基礎データ

【地域協議会代表者】

静岡県教育委員会教育長 池上 重弘

【運営事務局】

静岡県教育委員会教育政策課

【地域協議会の構成員及び産学官の役割】

構成員	役割
静岡県教育委員会（教育長）	代表者、運営協議会の総括
（一社）静岡県経営者協会	企業へのプログラム周知・広報、インターンシップ等協力、審査選考
（公社）静岡県国際経済振興会	
静岡県高等学校長協会	所管学校・生徒へのプログラム周知・広報、学校による生徒推薦
静岡県私学協会	
（公社）ふじのくに地域・大学コンソーシアム	協力大学（探究活動への助言等）との調整、審査選考
静岡市教育委員会	所管学校・生徒へのプログラム周知・広報、学校による生徒推薦
浜松市教育委員会	
（公財）はごろも教育研究奨励会	プログラムへの助言、審査選考、オリエンテーションでの講義
（公財）日本教育公務員弘済会静岡支部	
（公財）静岡県国際交流協会	

【地域協議会による事業運営】

◆ふじのくにグローバル人材育成事業

【目指す人物像】

海外探究活動を通じて更に磨き上げ

【国内で獲得できる素養】

- 静岡県の特性・特徴への理解
- 地域の発展に貢献する志
- 課題解決に向けて他者と協力して取り組む協調性
- 未知の課題に果敢に挑むチャレンジ精神
- 他者を導くリーダーシップ
- より良い社会を創造する力

【海外探究活動で獲得できる素養】

- 国際社会の中で地域の方向性を考える視座
- 実体験を通じた異文化理解
- 海外でのコミュニケーションの実体験を通じた自信とスキルの蓄積
- 課題解決に向けて国際社会にも出て行くチャレンジ精神

- 静岡県の発展に貢献することを希望する人材
- 国際的視野を持って、社会課題の解決や産業における新たな成長分野の開拓をしながら、静岡県の持続的な発展をリードするイノベティブな人材

【事務局の役割】

- (1) 事業全体の進行管理、調整
- (2) 運営協議会構成員との連絡調整・支援要請
- (3) 当該プログラムの広報・申請の受付
- (4) 寄付金の募集総括・受入れ
- (5) 事業費の拠出等の経理事務
- (6) 留学生への奨学金等支給
- (7) 日本学生支援機構への事業実施報告 等



運営協議会



地域プログラムの概要（静岡県）



◆ふじのくに地域探究コース概要

拠点形成支援事業には「マイ探究コース」「社会探究コース」「スポーツ・芸術探究コース」に加え、地域特有の課題解決や地域貢献につながるテーマを海外で探究する「地域探究コース」がございます。

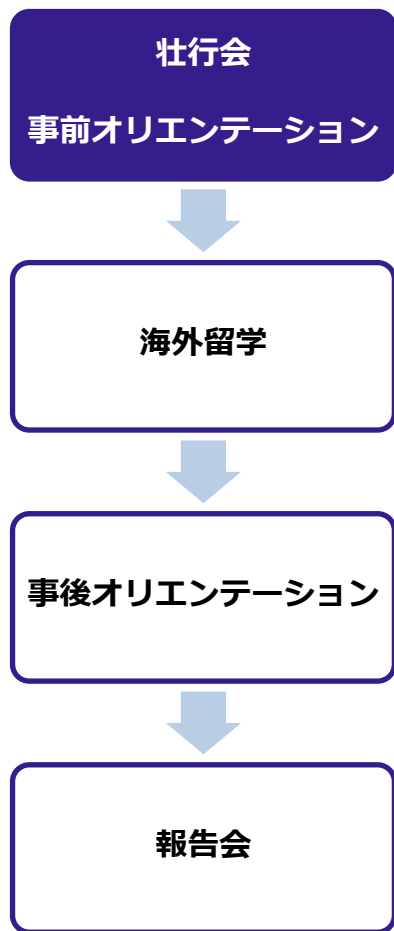
静岡県の特性（ものづくり産業、農林水産業、観光産業、多文化共生など）やその課題についてよく学び、地域への愛着を持ち、将来、静岡県の発展のために活躍しようという志を育むとともに、自由な発想と創造力をもって課題解決や活性化、社会貢献につながる探究活動に取り組むことを目的とし、7つのコース区分を設定しました。また個人応募とともに2～4名でのチーム応募も可能としています。

コース名	内容	コース名	内容
①ものづくり・地域産業コース	自動車や医薬品・医療機器、新エネルギー、健康福祉、ロボット等のものづくり・地域産業において、静岡県のイノベーションに寄与する人材を育成	⑤静岡と世界を繋ぐマイプロジェクトコース	上記以外のスポーツ、芸術、政治、行政、教育、ICT活用、メディア、ファッション、日本文化（郷土芸能、和食等）、医療、自然、栄養、言語、福祉等の様々な分野において、静岡県の特性を意識しながら実践的に学び考える人材を育成
②多文化共生・多様性コース	人種や国籍、性別、年齢、文化などの違いにかかわらず、多様な生き方や価値観を尊重し、すべての人が暮らしやすい地域社会づくりに寄与する人材を育成	⑥ものづくり×アジアコース【アジア特化型】	静岡県の産業と関わりの深い東アジア・東南アジア地域を訪問し、ものづくりについて実践的に学び考える人材を育成
③観光交流促進コース	アフターコロナを見据え、自らの地域を理解しながら観光交流の促進や観光ビジネスの発展に寄与する人材を育成	⑦観光交流×アジアコース【アジア特化型】	アジア地域からのインバウンド拡大を目指し、東アジア・東南アジアを訪問し、観光交流及び観光ビジネスについて実践的に学び考える人材を育成
④農林水産業みらいプロジェクトコース	農林水産業を軸とした関連産業のビジネス展開を促進する人材を育成		



地域プログラムの内容①（静岡県）

【プログラム内容】



海外留学前には全国から選ばれた仲間と一緒にを行う事前研修の参加が必須になります。

【壮行会・事前オリエンテーション】

派遣留学生51名、ふじのくにグローバル人材育成事業運営協議会構成員、支援団体が参加しました。壮行会では、派遣留学生代表が留学に向けた熱い思いを語るとともに、運営協議会代表を務める池上教育長、（独行）日本学生支援機構の田村審議役、（独行）日本貿易振興機構 静岡貿易情報センターの藤本所長、（公財）静岡県国際交流協会の加山業務執行理事から御挨拶と応援メッセージをいただきました。また、続いて参加者の交流の場を設け、協議会構成員や支援団体の方々に、直接、各派遣留学生の意気込み等を聴き、期待や励ましの言葉をかけていただきました。事前オリエンテーションでは、派遣留学生がチームになること、探究活動への理解を深め留学計画を磨くこと、静岡県の魅力について再確認することを目的として、グループワークを交えたプログラムを通じ、充実した活動を行いました。各テーブルに先輩留学生が入り、経験者にしかわからないアドバイスをもらうことができました。



【代表生徒挨拶】



【ストローを使ったアクティビティや留学計画の話し合いを行いました。】





地域プログラムの内容②（静岡県）

【プログラム内容】

壮行会
事前オリエンテーション



海外留学



事後オリエンテーション



報告会

留学事例①

【コース名】 ふじのくに地域探究コース④農林水産業みらいプロジェクトコース

【留 学 国】 カナダ

【留学期間】 7月22日～8月23日

【テ ー マ】 お茶を静岡から世界へ

私は静岡茶の海外での可能性を探るためにカナダへ留学しました。

現地では多くのお茶屋さんを訪れ日本茶の需要や果たすべき役割について学びました。

このトビタテプログラムを通して全く違った環境に飛び込んでみることで自分の価値観を本当に広げることができました。



留学事例②

【コース名】 社会探究コース

【留 学 国】 カンボジア

【留学期間】 7月28日～8月14日

【テ ー マ】 開発途上国の教育は本当に日本と比べて遅れているのか

海外の教育を学びにカンボジアへ行きました。

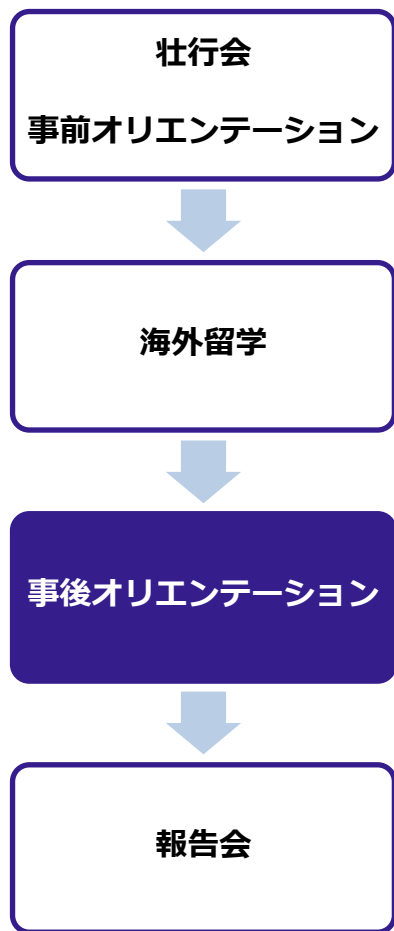
教育ボランティアや学校訪問を通して、開発途上国にも素晴らしい教育があることを知りました。慣れない環境でも周りを頼り計画を実行する力が身に付きました。





地域プログラムの内容③（静岡県）

【プログラム内容】



海外留学後には全国から選ばれた仲間と一緒に
事後研修の参加が必須になります。

【事後オリエンテーション】

前半はポスターセッションを実施しました。

派遣留学生は各自の留学や海外での探究活動について、活動の様子や課題、考察等を8枚のスライドにまとめ、それを模造紙に貼り付けて大きなポスターを作成しました。

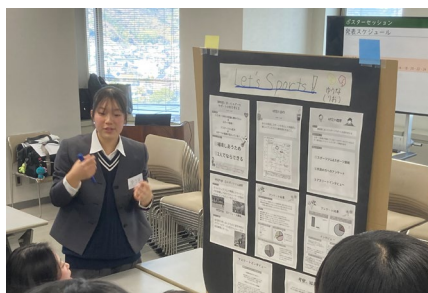
発表の際には、自分の思いや経験を聞く人たちに伝えようと熱を帯びて話す様子が見られました。同じように海外での探究活動を経験した仲間からのフィードバックから、気づきを得ることができたようでした。

後半はペアを作り、インタビュー活動を行いました。

留学の経験を元に自叙伝を出版する想定で、執筆者役と編集者役に分かれて、相互にインタビューしました。

また、自叙伝の帯をつくる活動では、キャッチコピーを考えるだけでなく、実際に画用紙等を使って帯を作成し、ペアにプレゼントしました。

留学体験を含むこれまでの歩みを振り返り、それを言語化することで、留学の価値や今後取り組むべきことを再確認することができました。

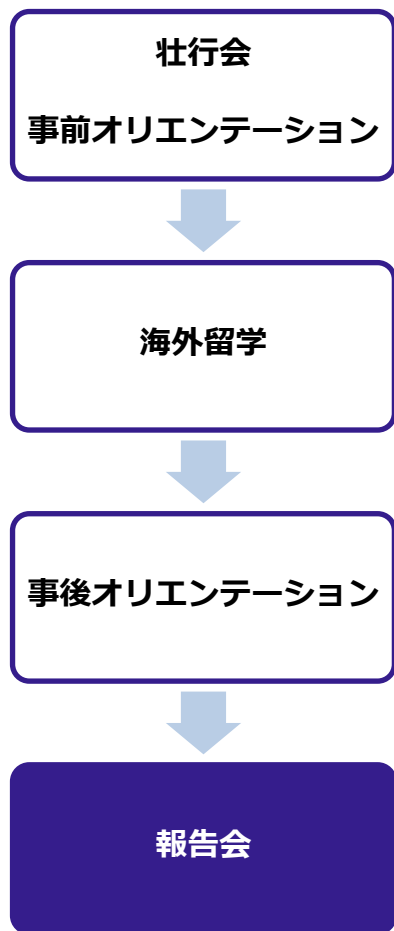


【ポスターセッション、ペアワークを行いました。】



地域プログラムの内容④（静岡県）

【プログラム内容】



【報告会】

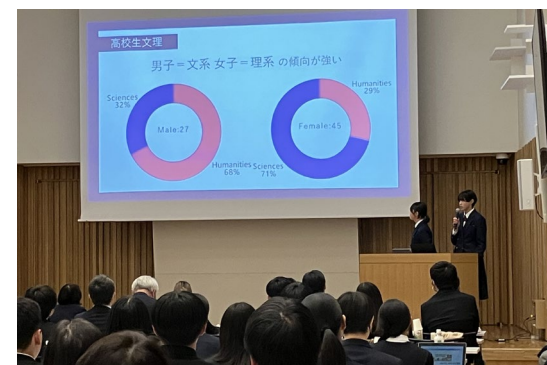
2月に行われた成果報告会では「ふじのくにグローバル人材育成基金」にご寄附いただいている支援企業・団体を招待し実施しました。

代表者8名（内チーム応募1組）が参加するとともに、派遣留学生が作成した留学報告資料を会場後方にてスライドショー形式で投影しました。

参加者は自身の探究成果、留学を通して学んだこと、今度の展望についてプレゼンテーションしました。

参加した支援企業・団体の方々との質疑応答のコーナーでは「留学で苦労したこと」といった質問や「一人やチームで海外へ留学し、自身の探究活動を行った皆さんをたのもしく思う。」「今回の留学で得た貴重な経験を周りの人にも伝えて欲しい」といったご意見がありました。

寄附いただいている企業・団体の皆様への事業周知はもちろん、参加した派遣留学生にとっても企業の方から意見をいただける貴重な成長の場となりました。



【自身の探究成果を発表するとともに、企業の方から意見をいただける貴重な場となりました。】



派遣留学生の声（静岡県）



コース：ふじのくに地域探究コース②多文化共生・多様性コース

【学校教育におけるジェンダーとLGBTQの言説—日本とニュージーランドの比較—】 静岡県立小山高等学校 鈴木天華、平山佳誉

国内での探究活動

『ジェンダー』

高校生の文系理系選択において、文系は女子生徒が多く、理系は男子生徒が多いという現状を知り、文理選択において男女比率に偏りが生じる要因を幼少期の社会環境に焦点を当てて探究した。

具体的な探究内容としては、「高校の文理選択における男女比率にはなぜ偏りがあるのか」という問いを立て、小山高校生徒108人を対象にアンケート調査を実施した。アンケートの結果、高校の文理選択には幼少期の社会環境と保護者のジェンダー観が強く影響していることがわかり、探究学習の成果発表を静岡大学が主催する「伊豆半島探究学習サミット」で発表した。これらの探究から、「生徒が性別を意識せずに進路が選択できる教育現場を作るには何が必要か」という新たな問いが生まれた。



『LGBTQ』

「静岡新聞感想文コンクール」を通し、LGBTQや性的少数者に向けた行政サービスである、パートナーシップ制度の拡充が県内の各自治体によって差が生じている現状を知った。そこで私たちは私たちが住む小山町の実態について調べるため、実際に小山町役場を訪れ、生涯学習課の方にお話を伺った。生涯学習課の方によると、小山町は現在制度を導入するか検討している段階であり、県東部では行政サービスの拡充に遅れを取っているという課題を見つけることができた。

海外での探究活動

【渡航国】：ニュージーランド【留学期間】：7/14～8/3

『ジェンダー』

ニュージーランドに住む人々のジェンダー意識と、学生の文理選択における男女比率を調査するため幅広い年齢層の男女と高校生を対象として、2つの内容で街頭アンケート調査を実施した。

幅広くジェンダーに関する意識のアンケートでは、街を歩く人々に直接声をかけ、ニュージーランドで生活していく中で普段ジェンダーギャップを感じるか、というアンケートを取った。文理選択に関する高校生を対象としたアンケートでは、小山高校で行ったアンケート調査と条件を揃えるため、同じ内容でアンケートを取った。



『LGBTQ』

LGBTQや性的マイノリティの方々に対する、日本とニュージーランドの意識の違いについて調査した。具体的な方法はLGBTQに関して幅広く調査するため、LGBTQの認知度に関する内容のアンケートと、LGBTQに対してどのようなイメージがあるかというアンケートを、街頭アンケートとして行った。また、語学学校のレクチャーの授業ではLGBTQに関して学ぶ授業があり、そこではニュージーランドに住む人々だけでなく世界各国からニュージーランドを訪れた留学生と、お互いのLGBTQに対する考え方や意識について議論した。



地域の声（静岡県）

【静岡銀行】

・日々グローバル化が進むなか、国際的な視野を持ち、これまでの常識や概念にとらわれない人材の育成が求められています。当行でもそうした人材が海外拠点などで幅広く活躍しています。本事業を支援することで海外留学への機運を高め、グローバルリーダーを輩出することで静岡県のより一層な発展に寄与したいと考えています。

・派遣留学生の皆さまにつきましては、今回経験したことや学んだことを自己に留めることなく、周囲の方たちに発信することでより多くの方にグローバルな視点を持つことの重要性を共有してください。



【ヤマハ発動機株式会社】

製造業である当社では、現場・現物・現実の『三現主義』を大事にしています。得たい情報が簡単に手に入る時代ですが、若い学生の皆さんが、直接海外に向き、現地の人と触れ合い、課題解決に向けて自ら行動するという本取組みは、まさに三現主義の実践です。また静岡県が掲げる教育方針「有徳の人」づくりの体現ともいえるでしょう。

様々な困難を乗り越え帰国された派遣留学生の皆さんが、イキイキと活動報告された姿を見、個性輝く素晴らしい成果を感じました。今後も地域とともに、グローバル社会に活躍する人材育成に取り組んでいきたいと思っています。





地域の声（静岡県）

【高等学校関係者】

《トビタテ派遣生による全校生徒への波及効果》

派遣生の数が増加した（1名→9名）ことにより、留学報告会（希望者対象・昼休み開催）や全校集会での報告の機会も増え、生徒にとって留学がより身近なものとなった。派遣生は情報発信や留学希望者からの相談への対応を継続して自主的に取り組んでいる。

《地域事業への期待》

次年度募集には本校より10名が個性豊かな探究テーマでエントリーしており、支援の継続と拡大が望まれる。



留学報告会（9月）
静岡県立静岡高等学校にて

【公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム】

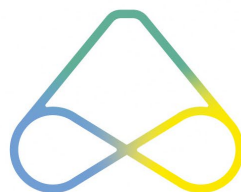
《派遣留学生への感想・評価》

・派遣留学生が多様な探究テーマを設定し、留学先も先進事例が学べるところや、比較・違いが学べるところなどテーマに沿った行き先を吟味して選んでいたことが印象的でした。

また、探究活動以外にも訪問先、ホストファミリーらと積極的に交流することで現地に住む人々の息遣いを知り、改めて自分の故郷について考える貴重な経験になったことと思います。

《地域事業への期待》

多くの高校生が地域に関する探究を事前に行った上で世界各地へ飛び立つことで視野を広げ、地域への還元や新たな提案ができることを期待します。



公 益 社 団 法 人

ふ じ の く に

The Consortium of Universities &
Local Communities in Shizuoka

地 域 ・ 大 学 コ ン ソ ー シ ア ム



地域プログラムの成果（静岡県）

【県全体の留学機運醸成の進捗】

本事業を契機として高校生等の留学意欲の向上を図り、県全体の留学者数をコロナ渦前の水準に回復させ、留学者数・海外交流者数の更なる拡大を目指す。

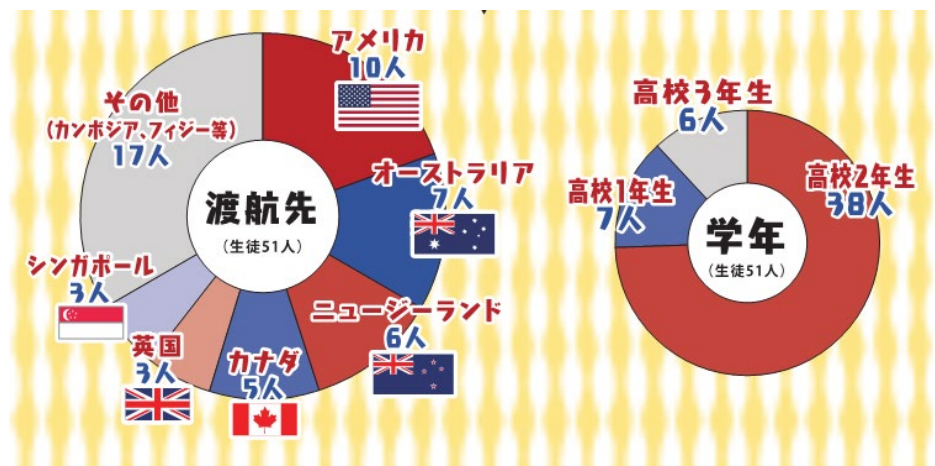
【派遣留学生の推移】

項目	R1	R2	R3	R4	R5
留学者数	243	14	11	58	137
支援企業数	28	32	33	35	40

【応募状況】

コース名	応募者数	合格者数
マイ探究コース	15	5
社会探究コース	3	2
スポーツ・芸術探究コース	3	1
ふじのくに地域探究コース	64	43
総計	85	51

【派遣留学生のデータ】



【留学期間】

14日～61日（平均23.5日）

【在籍学校等】

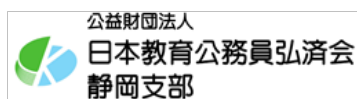
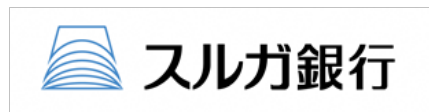
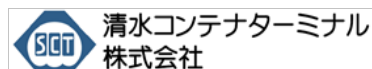
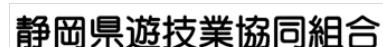
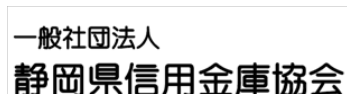
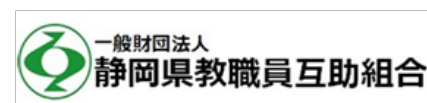
全日制高等学校24校 通信制高等学校1校

【探究テーマ】

- ・静岡の未来をヨーロッパの最先端農業から学び、つくる。
- ・多様性を認め合える乳幼児教育を海外に学び、グローバルな保育士になる！
- ・静岡と東南アジアの結びつきをエコツーリズムの観点から強くする。等



支援企業一覧（静岡県）



静岡県高等学校長協会
 静岡県高等学校等副校長・教頭会
 静岡県公立高等学校事務職員協会
 学校関係団体（同窓会、後援会等）
 ふじのくに応援寄附者（個人支援者）